

【校長室の窓】 R 2年 7月

## 「ほんとうの自分」を探すためには

川棚高等学校長 畑野 公昭

新型コロナウイルスが収まりかけ、ようやく学校生活も軌道に乗りにかけたところで、今度はいつ収束するともれない豪雨のため、ふたたび臨時休業を余儀なくされる日々の中、生徒の皆さんも、家庭で自分と向き合う時間が長くなったと思います。自宅での学習はもちろんのこと、読書や趣味など、自分にどれだけの幅を持たせた過ごし方ができるか、今一度、振り返る機会にしてほしいと思います。「勉強以外はスマホ」では、“大切ななにか”を置き忘れた人生にならないか心配です。

さて、5月にお話しした「自分を大切にする」の続編です。「自分を大切にする」とは、自分の中に進んで他者を招き入れ、素直な心でその真似をすること（学び）によって、自分の世界を広げること。ただし、もの真似に終わらないようにするにはどうするか…というところで話が終わっていました。

自分の人生に他者を受け入れると、ひょっとしたら「自分とは何者か」で悩むこともあるかもしれません。私は、いきものがかりの「YELL」が好きでよく聴くのですが、その中に“「ほんとうの自分」を 誰かの台詞（ことば）で 繕うことに 逃れて 迷って」という一節があります。本来の自分がどんな人間なのかを直視することから目を背け、他人の発した「ことば」で自分を決めつけて、自分で自分をごまかそうとしながら、どこかそうではない自分を模索しようとする若者の心を描きます。さらに「ありのままの弱さと 向き合う強さを つかみ…」と、未熟な自分としっかり向き合いながら、それを克服しようとする生き方を選択することで、初めて未来へと駆け出すことができる…と歌います。

まさに、この歌のとおり、「ほんとうの自分」を探すには、他者との関わりが不可欠であり、そしてそこに、「自分の弱さ」と向き合う苦しさがあるのです。高校時代の自分自身を振り返ると、「君はどう思うの？」と問われても、出てくることばが何か借り物のような気がして、自信をもって自分の考えを表明したり判断したりすることができず、自分と他人とを比べて、足りなかったり劣っていたりする状態を自分の生まれながらの才能や能力の限界と決めつけて、そこに安住しがちであったように思います。経験不足や思い込みからくる自信のなさ…それが「弱さ」なのかもしれません。

しかし、その状態から曲がりなりにも抜け出せたきっかけは、それまでの環境を思い切って変え、多くの友人やよきアドバイスをいただいた恩師と巡り合っただけで自分の世界や経験を広げてもらったことでしょうか。そのことを通して、自分にできることや得意なことが見えてきたように思います。環境を変えようと思った根底には、それまでの自分を変えたいという強い願望があったことは確かです。さて、生徒のみなさんは、自分とどう向き合おうとしているのでしょうか。次回は、「確かな自分」を持つためには、どうしたらいいかについて、もう少し掘り下げてみたいと思います。